

薬剤師・薬局の上手な活用法

Vol. 3

お薬手帳の活用促進

持って活かそうお薬手帳

皆様は、お薬手帳をお持ちでしょうか。お薬手帳は、過去から現在に至るまでの服用薬やアレルギー歴等を記載することができます。さらに既往症や副作用歴など、利用する方の様々な情報が充実することで、より安全に薬物治療を受けることができます。

薬剤師は、処方内容と薬

剤服用歴・お薬手帳に記録された過去の副作用やアレルギー歴、併用薬の重複などを総合的に確認して、その方にとって適切な医薬品かを判断します。お薬手帳には、医薬品をお渡しするたびにこれらの記録が追加され、情報が蓄積されています。

また、医薬品を使用して

気づいたこと、体調の変化、市販薬やサプリメントなどの情報をご自身で記載すると、薬局での健康相談等にも役立ち、医薬品をより安全に使用するための有効なツールとなります。

記載されている情報を含め

てその方の診察を行うことで、よりの確な診断が行えます。また、救急搬送時や災害時にも、普段飲んでい

るお薬を正確に把握することができません。お薬手帳は薬局で活用されるのみならず、様々な場面で安全な医療のために有用なものです。なかには複数のお薬手帳を持っていて情報がまとめられていない方も見かけます。お薬手帳は一冊に情報を集約し、携帯していることが重要です。

今後デジタル技術の進歩により医療情報も電子化が進みます。お薬手帳は、ご自身の希望により紙媒体と電子版のどちらも選ぶことができますので、電子版お薬手帳も次第に増えてきています。ライフスタイルに合わせて選択してみる等、有効に活用してください。



こちらも
チェック

お薬手帳のご相談はかかりつけ薬剤師・薬局に

公益社団法人 日本薬剤師会

